

第 558 回 放送番組審議会

1. 日 時 2019 年 12 月 17 日(火) 午後 4 時 30 分～

2. 開催場所 テレビ岩手 6 階大会議室

3. 委員総数 9 名

出席委員 9 名

委員長	恒川 かおり
副委員長	大橋 綾子
委員	佐藤 健志
委員	加藤 千晶
委員	高橋 司
委員	渡辺 理雄
委員	前田 千香子
委員	石田 亨
委員	柿木 康孝

社側出席者	榎野 信治 (代表取締役社長)
	青山 尚之 (専務取締役事業局長)
	池田 学 (取締役経営企画局長 兼 技術局長)
	柴柳 二郎 (報道制作局長)
	丸谷 尚史 (報道制作局制作部担当部長)
	遠藤 隆 (報道制作局シニア・ゼネラルプロデューサー)

事務局	畑山 篤 (取締役編成局長 兼 放送番組審議会事務局長)
-----	------------------------------

4. 議 題

1. 11/23(土)10:00～10:30 ニュースプラス1特集
「減災への道標(どうひょう)～検証台風19号災害～」
- 2.その他

5. 資 料 (資料として以下のものを配布)

- ・視聴者からのご意見
- ・単発番組リスト(当年1月～12月)

6. 意 見

委員側意見

- 番組の組み立てが、防災の避難、防災施設、水産業、この3つの観点から実情を確認し、課題を提起できた。問題提起と災害に対する備えについての注意喚起がわかりやすかった。
- サケのふ化場が被災したというところまではいいと思ったが、そこから先、サケが獲れなくなったという話はあんまり今回の台風とは関係ないかなと思った。30分という短い番組だったので、他の場면을深く掘り下げても良かった。
- ハード面に頼るのは限界があり、情報提供などソフト面の充実が必要ということで締まっていたけれども、そこが少し飛躍したかなという感じを受けた。
- 田の浜地区の問題をクローズアップし過ぎたような気がする。沿岸部ではここ以外にもずいぶん土砂崩れとか氾濫とか起こっていたので、たぶん三陸特有の問題があったのではないかと思った。
- サケの回帰率を上げる取り組みの解決策がどういう方向に行くというのがなく、尻切れトンボというふうに感じた。「こういう方向でやるのだ」というようなコメントがあったら良かった。
- 日本の地理的な特徴により水害と土砂災害が発生しやすいと思う。そこに今回は想定外と言われている雨量により排水機能が失われて被害が拡大したのだろう。堤防だけが必ずしも原因ということではない。可能性はもちろんあると思うが。
- タイトルからすると、どうやって被害を最小限にとどめるかという点を強調して伝えたいのだろうなと思って見た。結果としては、その部分では少し内容が物足りないというふうに感じた。
- 情報量がすごく多くて、よくこれだけ盛り込めたなという印象である。同じ内容で30分ではなくて45分から1時間くらいで、少しゆっくりと、そして掘り下げて見せてもらいたかった。
- 三陸鉄道や山田の船越地域など東日本大震災に襲われた地域にとって、この台風の被害の影響がどういう意味があるのかということをもう少し掘り下げたら良かった。

た。

局側意見

- 住民にすれば、避難指示だ勧告だなんとかだと、何が何だかわからないかもしれないと思う。しかし、出す側にすると仕方がないというところがある。この指摘は気象庁に対する抗議だけではなく、我々マスコミに対する問題提起と思った。
- 「どうひょう」というタイトルにした理由は、被害に遭われた方々にとって「みちしるべ」よりも柔らかいニュアンスになるとの判断。
- 田の浜地区だけの問題ではないが、同じ構造のものが普代村にもあるのに普代村ではあのような被害になっていない。専門家の中には田の浜は設計ミスだと言う人もいる。
- 台風と水産業は関係ないという意見もあるかもしれないが、沿岸がひどく被害を受けている。沿岸における基幹産業は水産業なので、やはりこの状況はお伝えしたいと思った。

7. 審議機関の答申または意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法及び年月日

公表の方法

- ①自社放送 12月24日(火)11:45-11:52「あなたと歩むテレビ岩手」
- ②テレビ岩手本社での備え置き
- ③読売新聞への掲載(別添)
- ④自社HPでの掲載 <http://www.tvi.jp/banshin/index.html>